

20171112 「海を渡る」

目標： 紅海徒渉のあらましを知り、それを自身への洗礼への招きとして捉える。

聖書箇所： 出エジプト記14章1節～15章26節 時間：10分

暗誦聖句：「あなたがたは恐れてはならない。かたく立って、主がきよう、あなたがたのためになされる救を見なさい。出エジプト記14章13節」

道具： ホワイトボード、ペン

対象者： 中3×1 中1×1 小6×1 小5×3 小3×1 小2×1 小1×2 幼稚園児×2

留意点： 紅海徒渉を葦の海や、自然現象の一つとして捉えようとすることは、聖書の神の奇跡の御業の意味合いを弱める。あくまで聖書に書いてあることを伝えるよう留意する。

段階	時間	教師から	子供に予想される反応	備考
課題確認	2分	神様がエジプトに災いを幾つも下し、遂にエジプトはイスラエルを解放しました。 最後の災いは何だったか覚えていますか。	・エジプトの全ての初子が殺された。	前回の復習。軽く押さえておきたい。
課題探究	6分	その後、どうなったでしょう。 イスラエルの人々は、昼は雲の柱、夜は火の柱で神様に導かれていきました。 エジプト王パロは、それでも彼らが惜しくなり、大軍勢を引き連れて彼らを追いかけてきました。神様が導いた先は、何と海岸でした。このままで大丈夫なのでしょう。 モーセが主に祈りました。すると、東風が吹いてきて、海の水がせき止められ、乾いた道が出来たのです。 イスラエルの民が通過した後、エジプト軍が追いかけてきました。そこに、海の水が襲いかかり、彼らは全滅してしまっただけです。 このことを紅海徒渉と言います。	・危ない。 ・何で神様はそんなところに導いたのだろう。	似たような経験があると良い。筆者は夜にガス爆発の火柱を見たことがある。とても目立ったことを思い出す。共感を促したい。捨てたものなのに惜しむ心である。その根底にはサタンの人に対する執着が透けている。 袋小路のイメージを子どもたちに掴ませる。
まとめ	2分	このことを、教会は、人が洗礼を受けて救われることと重ねて理解してきました。 水をくぐる前は、世の中へ戻る力が悩ましますが、水をくぐってからは、神様の守りにあるからです。皆さんには、是非洗礼を受けてほしいと思います。神様が特に恵んで下さり、世の誘惑や罪からあなたを守って下さるからです。 暗誦聖句		聖書の朗読（v 21-29）で提示しても良い。 余韻を残すように努める。 板書し、意味を説明する。モーセにより、イスラエルの人々が水をくぐり、救われた出来事である。諸説あるが、聖書の記述通りで行くと紀元前1600年代の出来事である。 提示なので、子供に意見は求めない。 洗礼と紅海徒渉を重ねてイメージさせるよう努める。 190号のテーマ「神の恵みに生かされる」からの反映。